

今後の展望 全社的な業務改革を目指しクラウドを経営に活かす

2020年の東京五輪後、景気の落ち込みが懸念される。こうしたなか、冒頭で触れた通り、売上拡大のためには、さらに生産性向上を図る必要がある。今後は、仕訳入力自動化を最大限活用していく方針だ。

「入金と給与の仕訳入力の自動化には期待しています。今はまだつながっていませんが、勘定奉行クラウドと給与奉行クラウドの連携も実現していきたいです。当社のような中小企業は、経理が属人化している場合が多いため、経理の継承も大変です。だから、人に頼らずとも業務が回る勘定奉行クラウドは中小企業の経理業務改善に有効な仕組みだと思います」

クラウド活用は会計と給与に留まらない。同社では全社的にクラウド活用を検討しているという。

「現状、日報を書くには帰社しなければいけません。そのため、直行直帰が可能な仕組みを整えて、営業活動の効率化を後押しした

いですね。総務部門においては勤怠管理もクラウド化したいと考えています。将来的には会計と給与、勤怠管理がつながり、システムチェックにすべて集計できる形を目指しています」

あらゆるデータがつながれば経営に役立つ有用な示唆が得られることだろう。谷本氏は「未来を見据えて対策を打つのが経営。経理で扱うのはあくまで過去の数字に過ぎず、そこから何を導くかが重要です。これまでの経理はその視点が抜けている。つまり、経理は“財務へ”ステップアップしなければならないんです。クラウドはそれを実現するためには必要不可欠なもの。人員が限られている中小企業こそクラウドを活用すべきだと思います」と力強く語る。

同社における全社的な生産性向上への挑戦は始まったばかりだ。OBCの提供するシステムがそのチャレンジを支えていこう。

※掲載内容は取材当時のものです。担当者名、部署名、サービス内容等が変更になっている場合があります。あらかじめご了承ください。

すべての業務とつながるひろがる 奉行クラウド 導入事例

お客様名 **株式会社アルコン 様**
導入製品 **勘定奉行クラウド**



月40時間もの経理の作業時間を削減 全社的な生産性向上を見据え クラウド化を推進



企業プロフィール

株式会社アルコン

所在地…神奈川県横浜市港北区新横浜2-17-19 AR新横浜ビルディング2F
総人員…25名
URL…<http://www.archon.co.jp>



新築構造設計のほか、リニューアル設計も手がける一級建築士事務所。早くからBIMを用いた三次元モデルを取り入れて業容を拡大。生産工場や商業ビル・共同住宅などの設計を得意とする。3年前から新卒採用を本格的に開始し、次世代を見据えた経営革新に取り組んでいる。

導入製品

勘定奉行クラウド 給与奉行クラウド

導入事例のみどころ

01 検討のきっかけ

さらなる成長のため、生産性向上が喫緊の課題に。

02 導入の決め手

生産性向上に資するリアルタイム処理や自動仕訳が導入の決め手に。

03 導入効果

作業時間が月40時間削減され、決算早期化にも効果を発揮。

株式会社 **オービックビジネスコンサルタント**
URL <https://www.obc.co.jp>

販売代理店

〈東 京〉〒163-6032 東京都新宿区西新宿6-8-1 住友不動産新宿オークタワー	TEL.03(3342)1880(代) FAX.03(3342)1874
〈札 幌〉〒060-0003 札幌市中央区北三条西4-1-1 日本生命札幌ビル10F	TEL.011(221)8850(代) FAX.011(221)7310
〈仙 台〉〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1 仙台トラストタワー20F	TEL.022(215)7550(代) FAX.022(215)7558
〈関 東〉〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-9-6 大宮センタービル7F	TEL.048(657)3426(代) FAX.048(645)2424
〈横 浜〉〒220-0011 横浜西区高島1-1-2 横浜三井ビルディング15F	TEL.045(227)6470(代) FAX.045(227)6440
〈静 岡〉〒420-0857 静岡市葵区御幸町11-30 エクセルワード静岡ビル5F	TEL.054(254)5966(代) FAX.054(254)5933
〈金 沢〉〒920-0853 金沢市本町1-5-2 リファール5F	TEL.076(265)5411(代) FAX.076(265)7068
〈名古屋〉〒450-6325 名古屋市中村区名駅1-1-1 JPTタワー名古屋25F	TEL.052(589)8930(代) FAX.052(589)8939
〈大 阪〉〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル23F	TEL.06(6367)1101(代) FAX.06(6367)1102
〈広 島〉〒730-0032 広島市中区立町2-27 NBF広島立町ビル4F	TEL.082(544)2430(代) FAX.082(541)2431
〈福 岡〉〒812-0039 福岡市博多区冷泉町2-1 博多紙園M-SQUARE 9F	TEL.092(263)6091(代) FAX.092(263)6099

※会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。※カタログに記載された内容および製品の仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。※本カタログの記載内容は2019年8月現在のものです。

01 検討のきっかけ

経理の本来やるべき付加価値の高い仕事を行うため、業務生産性の抜本的な改革が必要

高い技術力や対応力が評価され、順調に業容を拡大している一級建築士事務所の株式会社アルコン。2018年度には新卒社員を5名迎え、さらなる売上拡大を目論む。こうしたなか、生産性向上が喫緊の課題として浮上した。取締役副社長管理本部統括の谷本玲子氏が語る。

「当社のような中小企業の場合、従業員ひとりひとりの生産性を向上させていかなければ、成長は望めません。例えば経理において、仕訳入力の作業は必ずやらないといけません、付加価値を生む仕事ではありません。そういった価値の低い作業を減らし、その空いた時間を使って将来の資金繰りや受注を伸ばすための付加価値の高い仕事に時間を当て、企業の成長に繋げていくことが必要でしょう。そこで、クラウドを活用してまずは経理業務の仕組みを根本から変えていくことを選択したんです」

具体的に、どのような作業の時間削減を目指したのか。そのひとつが「税理士とのやり取り」であった。

「従来の会計システムでは、月次や決算などに発生する税理士との会計データのやり取りをバックアップデータの提出で行っていました。その際に発生する、会計システムのバックアップデータ出力やメールによる

データ送付に要する時間を減らしたかった。また、税理士にデータを確認してもらう間の待ち時間が長く、その間に新しい仕訳が入力できず、作業効率が悪かったんです」

バックアップデータの送受信以上に時間がかかっていた作業がある。それは「手戻り」である。

「具体的には、決算前に税理士に会計システムのバックアップデータを渡して、チェックが終わるまで10日ほど待ちます。その間に、自社で仕訳入力のミスが発覚して修正をすることがあるのですが、税理士のチェックが完了して戻ってくるバックアップにはその修正データが反映されておらず、数字が合わないということがありました。その後、原因を確認して再度修正する事務作業が、たびたび発生していたんです。このような無駄な作業が生産性の低下を招いていました」(谷本氏)



取締役副社長
谷本 玲子氏

02 導入の決め手

税理士チェックに要する待ち時間が0に。大幅な時間削減効果が見込め、高いコストパフォーマンスを実現

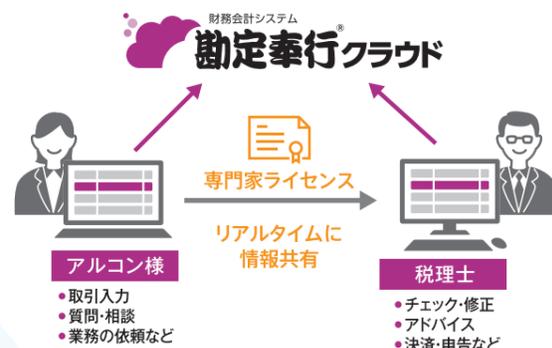
同社が勤定奉行を導入したのは2012年のことだ。導入以来、オンプレミス版で勤定奉行を活用してきたが、2018年6月に勤定奉行クラウドへ変更。使い続けられる会計システムがすでにあるにもかかわらず、なぜ勤定奉行クラウドへ変更する必要があったのか。一般的にクラウドに変更すると、オンプレミス版に必要なイニシャルコストはかからない。しかし、保守サービスなどを含む年間ライセンス料が別途かかるため、ランニングコスト増になる懸念があった。

「それでも導入を決断したのは生産性の向上が見込めるからです。勤定奉行クラウドを活用すれば、人件費の削減が期待でき、十分に費用対効果があると感じました」(谷本氏)

具体的には、勤定奉行クラウドのどのような点に魅力を感じたのか。「主な魅力は2つでしょう。ひとつは税理士とのコミュニケーションの円滑化です。税理士とリアルタイムでデータ共有が可能なので、仕訳を即座にチェックしてもらえます。また、税理士のチェックに要する10日間の無駄な待ち時間が0になり、税理士の確認を終えてからでないとすることができなかった一連の入力作業も、勤定奉行クラウドならリアルタイムに行うことが可能です。」(谷本氏)

勤定奉行クラウドでは、公認会計士や税理士などの専門家と一緒に活用することを想定し、標準機能で専門家専用のライセンスを提供している。税理士とつながることで経理業務の生産性向上を目指したわけだ。

「もうひとつの魅力は自動仕訳ですね。金融機関と連携した自動化機能の活用によって、入出金仕訳の入力作業がなくなります。また、給与奉行クラウドとの連携で、給与仕訳の入力を自動化できる点もメリットでした」(谷本氏)



03 導入効果

無駄な手戻りや待機時間を削減 作業時間を月40時間減らすことに成功

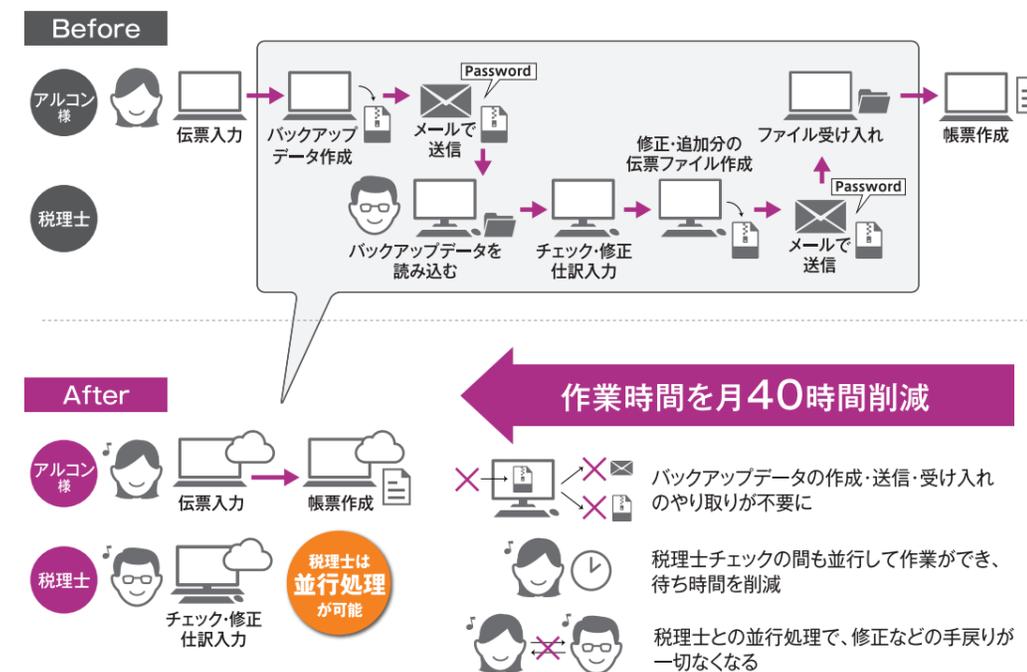
勤定奉行クラウドの導入によって、どのような効果があったのか。顕著に表れたのは作業時間の削減だ。細かな時間を積み上げると月40時間にもなったという。

「税理士とのやり取りに要するバックアップデータ出力、メールによるデータ送付などにかかっていた時間のほか、無駄な待機時間を減らせたことが大きい。仕訳伝票の修正による手戻りの作業も一切なくなりました。オンプレミス版では、税理士が確認を終えるのを待って入力作業を進める必要がありましたが、勤定奉行クラウドの場合、双方で確認と入力と同時に進めるので時間効率がいい。さらに、決算対策が早めに打てるようになったんですよ。例えば、固定資産を売却したとします。金額がわかった段

階で税理士に依頼して入力しておいてもらえば、データにすぐ反映され決算前に慌てなくて済みます」

一方、仕訳入力の自動化で作業時間は削減できたのか。

「実際に使ってみると意外なワナに気づきました。それは経理担当者の教育にならないということ。当社の経理担当者は新人なので、自動化に頼りきりになるとスキルが上がらない恐れがあります。そこで本人のスキルアップのために自動化の活用をいったんストップしています。しかし、これはあくまで一時的なもの。仕訳入力の自動化は経理業務の生産性向上のキモだからです。仕事を覚えてきたらフル活用する方針。そうなれば、作業時間をさらに削減できるでしょう」



導入効果

勤定奉行クラウドに無償で付属している専門家ライセンスを税理士に提供することで、税理士とのリアルタイムな会計データの共有を実現。税理士との間で発生していたやり取りや待ち時間などを削減でき、生産性を飛躍的に向上できた。

- 税理士との面倒なバックアップデータやファイルのやり取りが不要になった
- 税理士と並行して業務を進められるようになり、無駄な待ち時間を削減できた
- 決算時に税理士とのやり取りで発生していた、仕訳伝票の修正による手戻りの作業がなくなった
- 税理士によるリアルタイムな代行入力により、決算対策を早めに打てるようになった
- いつでも勤定奉行にアクセスできるようになり、担当者に帳票出力を依頼する作業がなくなった
- 自動バックアップにより、データ保手を手間なくできるようになった